

2027年国際園芸博覧会
環境影響評価方法書に係る答申

令和4年10月14日

横浜市環境影響評価審査会

令和4年10月14日

横浜市長 山中 竹春 様

横浜市環境影響評価審査会

会長 奥 真美

2027年国際園芸博覧会

環境影響評価方法書に係る調査審議について（答申）

令和4年5月31日環創環評第49号により諮問のありました標記について、当審査会は慎重に調査審議を重ねた結果、次のとおり結論を得たので答申します。

なお、本件に係る方法市長意見書の作成に当たっては、当審査会で指摘した事項について十分に配慮されるよう申し添えます。

第1 対象事業の概要

1 事業者の名称等

名 称：一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会

代表者：代表理事 十倉 雅和

所在地：横浜市中区本町4丁目43番地 A-PLACE馬車道4階

2 対象事業の名称及び種類

名 称：2027年国際園芸博覧会（以下「本事業」といいます。）

種 類：開発行為に係る事業（横浜市環境影響評価条例に規定する第1分類事業）

3 対象事業実施区域

横浜市旭区上川井町、瀬谷区瀬谷町

4 事業の目的

本事業は、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を目的として、まちづくりが進められている旧上瀬谷通信施設地区の一部を会場として活用し、国際園芸博覧会（以下「博覧会」といいます。）を開催するものです。

5 事業の内容

本事業の概要は下表のとおりです。

表 事業の概要

対象事業実施 区域の面積	約 100.0ha (会場区域 約 80ha、駐車場区域及びバスターミナル 約 20ha)	
博 覧 会	開催期間	令和 9 年 3 月～ 9 月
	参加者数	1,500 万人 (ICT 活用や地域連携などの多様な参加形態を含む) (有料来場者数 : 1,000 万人以上)

博覧会の会場区域は、庭園等及び庭園等を支える施設、展示等の施設から構成されます。展示施設やサービス施設、管理施設などは仮設として整備し、博覧会の終了後に撤去するほか、会場の一部は将来の公園等として広く市民に利用される予定です。また、対象事業実施区域から概ね 10km 圏内に複数の自家用車用駐車場を確保し、駐車場利用者を会場までシャトルバスで輸送するパークアンドライドを実施します。

なお、事業者は令和 4 年 7 月に「2027 年国際園芸博覧会基本計画案」を公表し、今後、基本計画を策定するとしています。

第 2 地域の特性

対象事業実施区域が位置する旧上瀬谷通信施設地区は、戦後米軍により接収され、平成 27 年 6 月に返還された米軍施設の跡地です。対象事業実施区域は、「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業（以下「土地区画整理事業」といいます。）」により改変された後に、上下水、ガス等のインフラが整備され、その後、「(仮称)旧上瀬谷通信施設公園整備事業（以下「公園整備事業」といいます。）」により園路、広場等が整備される予定です。

対象事業実施区域の周辺には、一般国道 246 号や一般国道 16 号(保土ヶ谷バイパス)等の幹線道路や、相模鉄道本線、東急田園都市線等の鉄道が通っています。対象事業実施区域最寄りの駅は相模鉄道本線瀬谷駅です。

対象事業実施区域内には環状 4 号線が南北に通っており、対象事業実施区域の南側には市街地が形成され、住宅地や公共施設等が存在しています。

現在の対象事業実施区域の土地利用としては、そのほとんどを「その他の農用地」が占めています。大門川、相沢川及び和泉川が対象事業実施区域内を流れ、和泉川周辺には湧水が分布しています。対象事業実施区域の北東側には堀谷戸川が存在し、南東側周辺には「瀬谷市民の森」や「上川井市民の森」等が広がっています。また、対象事業実施区域は「横浜市水と緑の基本計画」における「緑の 10 大拠点」である「川井・矢指・

上瀬谷地区」に位置しています。対象事業実施区域及びその周辺では、「環境省レッドリスト2020」、「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」等により重要な動植物種が確認されています。

第3 審査意見

環境影響評価の実施に当たっては、事業内容及び地域特性を考慮し、方法書に記載された事項に加え、次に示す事項に留意する必要があります。

1 事業計画

- (1) 方法書提出後に基本計画案を公表し、今後基本計画を取りまとめる予定であることから、準備書には最新の会場配置計画等を示すとともに、駐車場の形状や土地被覆の性状など具体的な整備内容を示すこと。
- (2) 本事業における整備に当たっては土地区画整理事業と公園整備事業が密接に関連することから、それらの事業と整合を図り、各事業の整備内容や博覧会の開催後に撤去する施設と公園整備事業に継承する施設が何かを具体的に分かりやすく準備書に記載すること。
- (3) 交通分担率やシャトルバス発着駅、パークアンドライド駐車場の場所、関係車両の走行経路、方向別交通量など、輸送計画の詳細を準備書に記載すること。
- (4) SDGs 目標期間内の開催でもあり、環境への取組を国内外へ発信する場ともなることから、国産材の活用や ZEB 認証、ZEB-Ready 認証取得などの取組も検討し、より一層の環境配慮に努めること。

なお、目標としている電力を 100%再生可能エネルギーとする具体的な内容を準備書に記載すること。

2 環境影響評価項目

(1) 開催中

ア 温室効果ガス

灌水や散水に多くの水を使用することから、水の使用に伴う温室効果ガス排出量について算定するとともに、積極的な雨水利用に努めること。

イ 生物多様性

北東に大規模な駐車場を造る計画であることから、動物、植物、生態系に及ぼす影響を予測、評価する際は、駐車場の形状や土地被覆の性状を踏まえること。

ウ 水循環

北東の大規模な駐車場区域が堀谷戸川上流部の集水域に位置し、駐車場の土地被覆の変化による河川の流量への影響が想定されることから、環境影響評価項目として選定すること。

エ 地域社会

- (ア) パークアンドライドは交通集中の回避に寄与する一方、パークアンドライド駐車場周辺における交通混雑の発生が懸念されることから、交通分担率等を踏まえた上で、周辺の交通混雑について調査、予測、評価すること。
- (イ) 鉄道からシャトルバスへの乗換えを行う結節点では、輸送力の違いによる来場者の滞留が想定されることから、周辺住民等の駅利用への影響について準備書に記載すること。
- (ウ) 来場者がバスターミナルから環状4号線を横断する方法及び会場区域内を縦断する区域内道路1号を横断する方法について、準備書に記載すること。
なお、横断方法が平面の場合には歩行者の安全上の配慮について検討するとともに、交通混雑等の予測、評価においても考慮すること。
- (エ) 博覧会の開催期間中は、対象事業実施区域周辺の道路において信号設定等の交通制御に大きな変更が想定されることから、それらを考慮して予測、評価すること。

オ 景観

相沢川の保全対象種の生息環境や北東の駐車場区域が把握できる調査地点を追加し、市民の森だけでなくその他の樹林や農地等を構成要素とする景観の変化について予測、評価すること。

■ 横浜市環境影響評価条例に基づく手続経過

令和4年4月21日	事業者が方法書を市長に提出																		
令和4年4月22日	事業者が方法書周知計画書を市長に提出																		
令和4年5月13日	市長が方法書の提出を受けた旨を市報公告し、方法書の写しの縦覧を開始（令和4年6月27日まで46日間） 縦覧場所 環境創造局環境影響評価課、 旭区役所区政推進課、瀬谷区役所区政推進課 （横浜市中心図書館、旭図書館及び瀬谷図書館で閲覧を実施）																		
	市長が方法書の全文を環境影響評価課ウェブページで公表																		
	市長が方法書に対する意見書の受付を開始（令和4年6月27日まで46日間） 意見書数 21通																		
令和4年5月13日 ～同年5月22日	事業者が方法書対象地域内に方法書の概要及び方法書説明会の開催を周知 各住戸へのポスティング 投函部数 約21,350部																		
令和4年5月31日	環境影響評価審査会 市長が方法書に係る調査審議について審査会に諮問 事務局説明（方法書に係る手続について）、事業者説明（方法書）、 質疑及び審議																		
令和4年6月4日 6月5日 6月9日 6月10日	事業者が方法書説明会を開催 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">開催日</th> <th style="width: 30%;">場所</th> <th style="width: 40%;">参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月4日（土）</td> <td>旭公会堂</td> <td>23名</td> </tr> <tr> <td>6月5日（日）</td> <td>瀬谷区民文化センター</td> <td>41名</td> </tr> <tr> <td>6月9日（木）</td> <td>瀬谷区民文化センター</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td>6月10日（金）</td> <td>旭公会堂</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合計</td> <td>115名</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	場所	参加者	6月4日（土）	旭公会堂	23名	6月5日（日）	瀬谷区民文化センター	41名	6月9日（木）	瀬谷区民文化センター	45名	6月10日（金）	旭公会堂	6名	合計		115名
開催日	場所	参加者																	
6月4日（土）	旭公会堂	23名																	
6月5日（日）	瀬谷区民文化センター	41名																	
6月9日（木）	瀬谷区民文化センター	45名																	
6月10日（金）	旭公会堂	6名																	
合計		115名																	
令和4年7月11日	環境影響評価審査会 事務局説明（指摘事項等一覧）、事業者説明（補足資料、方法書説明会の開催状況、質疑、意見の概要及び事業者の説明）、質疑及び審議																		
令和4年7月28日	環境影響評価審査会 事務局説明（指摘事項等一覧）、事業者説明（補足資料、方法書に対する意見書の概要及び事業者の見解）、質疑及び審議																		
令和4年9月1日	環境影響評価審査会 事務局説明（指摘事項等一覧）、事業者説明（補足資料）、質疑及び審議																		
令和4年9月29日	環境影響評価審査会 事務局説明（指摘事項等一覧、検討事項一覧）及び審議																		
令和4年10月14日	環境影響評価審査会 事務局説明（答申案）及び審議																		

■ 事業者が当審査会に提出した補足資料

- 1 会場コンセプト及び会場配置計画図について
- 2 国際園芸博覧会までに整備される施設等について
- 3 輸送計画について
- 4 市民の森等に対する景観影響について
- 5 和泉川上流域における湧水及び河川流量の影響について
- 6 土地区画整理事業、公園整備事業及び本博覧会による整備について
- 7 本博覧会における景観の調査・予測・評価の考え方
- 8 堀谷戸川流域における動物、植物、生態系に関する調査・予測・評価の考え方について
- 9 堀谷戸川の河川の流量への影響について
- 10 国際園芸博覧会における温室効果ガスの算定対象及び環境配慮について

■ 横浜市環境影響評価審査会委員

上野 佳奈子

◎ 奥 真美

押田 佳子

片谷 教孝

○ 菊本 統

五嶋 良郎

酒井 暁子

田中 稲子

田中 修三

田中 伸治

中西 正彦

藤井 幹

藤倉 まなみ

宮澤 廣幸

横田 樹広

◎会長 ○副会長 五十音順 敬称略